

寺報

令和3年(2021)孟蘭盆会第144号(1)

発行 福島市田沢字寺前18

長秀院・仲興寺

TEL 024(548)1240

FAX 同上

ホームページ <http://www.choshuin.jp/>

e-mail info@choshuin.jp/

編集責任 渡辺 祥文



— 暑中お見舞申し上げます —

新型コロナウイルス感染症の収束・終息を

心より祈念致します

また、東京オリンピック・パラリンピックの

無事成功を念じ上げます

盂蘭盆会



お盆は正式には、盂蘭盆会といえます。略して「お盆」となりました。中国で作られたお経である「仏説・盂蘭盆経」が由来とされますが、中国の祖霊信仰に日本の農耕儀礼が交じり仏教に取り入れられ、中国と日本で広まりました。現在までに約千五百年の歴史を有すると言われています。

お盆には、亡き人々も、生きている人々もみな里帰りします。みなが盆棚・仏壇を中心に集まる懐しく楽しい一時です。

二年目のコロナ禍中ですが、お盆の大切な一時をみなで語り、先祖とわたしたち、そして生きているものの「絆」をかみしめて過ごしたいものです。

案内板

本年も、不特定多数参加の行事は中止となります。

盆踊り大会（長秀院護持会主催）

新型コロナウイルス肺炎感染拡大防止のため中止といたします。

仏教会主催とろうろう流し

八月十七日（福島市仏教会主催）

本年は無参加者（無観客）の法要を行います。

また、皆様のとろうろうも申し受けます。

令和三年 盂蘭盆会

山主 拝

七月二十七日現在、新型コロナウイルス感染症「第五波」の感染が拡大しつつあります。

今後とも状況により行事等についてお知らせ致します。

雲水日記 その二

渡辺 秀憲

東京は梅雨が明けて一気に夏模様となりました。皆様いかがお過ごしでしょうか。

今号からは、永平寺での出来事を上山から順に振り返ります。上山当日、地蔵院に到着した日のことです。

地蔵院とは永平寺の門の横にある小さなお寺です。永平寺の修行を希望しても最初は中に通されず、まず地蔵院で着物の着方やお拝の仕方など、僧侶としての基本的な作法を叩き込まれるのです。

上山当日、門前町の長い坂を上っていくと、住民の方々の温かい声援を割って怒号が飛んできました。

「名前聞こえない！声が小さい！やり直し、もう一回！」

先に到着したものが、鬼のような迫力の

修行僧にどやしつけられています。名乗りの声が小さい、そんなことでこんなに怒られるのか？と戦慄しながら、地蔵院の前に並びました。指導僧から一言、

「これから木版を打ってもらいます。引き返すなら今ですよ」

木版はいわばインターホン。玄関や山門などにつるされていて、木の板を打ち鳴らして到着を知らせます。曹洞宗の到着における正式な作法で、鳴らせば「やっぱりやめた」とは言えません。

自分の番になって、木版の前に進み出ました。見よう見まねでやろうとすると、持ち方が違うという声に思わず振り返り、指導役の修行僧と目が合ってしまった。

「なにをしている。一度で覚えろ！作法を覚えてないのか!!」

自分ほとんどでもないところに来てしまった、と遅まきながら後悔しました。帰りたいけど、見送ってくださった檀信徒の方々、家族・親戚の皆さんの姿が頭をよぎり、帰るに帰れません。恐怖とあきらめを胸に、その日自分が打ち鳴らした木版の高く澄んだ音を聞いたのでした。

少し時間が過ぎて二か月ほど経つたころ、地蔵院で指導役だった修行僧にばったり会いました。思わず身構えた私に、修行僧は朗らかに話しかけてきました。

「あ、地蔵院の時の！あの時はごめんね」
新入の僧に厳しく当たるのは、自分これまでの日常を捨て、修行に来たことを実感させるために必要な儀式。そのためには迎える側も、恨まれようとも般若の仮面を被る。厳しさはやさしさの裏返しなのです。



新型コロナウイルス感染症 第五波と感染防止について



現在東京オリンピックが開催され熱戦が繰りひろげられ、多くの人がテレビの前で観戦しています。(七月二十七日現在)。

高齢者のワクチン接種は順調に進んだようですが、六十四歳以下の方々には接種のスピードが遅くなっているようです。また第五波は大きな拡がりとなり全国で新たに罹患した方々が九〇〇〇人を越えました(七月二十八日現在)。

ワクチン接種により高齢者の死亡と重篤化は明らかに減っているようですが、ワクチン接種率が全国民の二割程の状況では、感染防止策は維持していかなければなりません。変異株主体となった現在、さらに気をつけなければならぬ状況であろうと思います。

今後ともしばらくは寺院の対応もゆるめることなく続けてまいります。何とか早く全ての感染が下火となることを願うばかりです。

(住職 拝記)

八月十七日 福島市仏教会主催

「とうろう流し」隈畔で開催

※ただし、無参拝(無観客) 法要

とうろうの申込みは例年通り、各寺院へ申込みをお願いします。(当日受付はありません。また各自持込みもありません。)

真心を一灯に託して

令和三年 万灯会

福島とうろう流し

とき 令和三年 八月十七日(火) 「開始・十八時半」

(雨天の場合 八月二十日(金))

ところ 阿武隈川県庁裏 隈畔

河川敷入場禁止

コロナ感染防止のため

とうろう現地受付の中止

コロナ感染拡大防止のため、実行委員以外の一般の方の入場を禁止いたします。

入場禁止に伴い、灯籠を希望される方は菩提寺か最寄りのお寺にお申し込みください。

今年の夏の坐禅会



◆ 7月30日 開催予定 (7月17日現在)
蓬萊学習センター こども広場



福島県宗務所関係行事について

● 本山研修会 (大本山總持寺)

(九月上旬) …………… 中止

● 梅花流福島県奉詠大会

(十月下旬) …………… 中止

いずれもコロナウイルス感染症拡大防止のため本年度も中止となりました。



● 八月七日(土) 午後四時 (※本年も人数制限をいたします)

長秀院孟蘭盆供養会 (総供養・新盆供養を行います)

● 八月十三日(金) 午後四時 (※本年も人数制限をいたします)

仲興寺孟蘭盆供養会 (総供養・新盆供養を行います)

● 八月十三日(金)～十六日(月)

孟蘭盆会

● 八月十五日(日)

長秀院盆踊り大会 (八月十五日の夕べ) …………… 中止

● 八月十七日(火) (仏教会僧侶関係者のみにて開催(無参拝法要))

流灯会とうろう流し (福島市仏教会主催)

おねがい

お盆前後は行事も多く、住職が不在がちになります。種々の相談等でお急ぎの場合は電話またはFAXにてご確認ください。

電話 ○二四一五四八一～二四〇
FAX 右同

う ら ぼん え 盂蘭盆会総供養のしおり



1 お盆の行事

お盆の正式な名称は「盂蘭盆会」と言います。サンスクリット語（古代インド語）の「ウランバーナ」という言葉に由来すると言われていています。やがて「ウランバーナ」が中国において音をまねて「盂蘭盆」という言葉に漢訳され、日本に伝わり、略されて通称「お盆」と言われるようになりました。日本においては特にご先祖方や各精霊が家庭に里帰りされゆっくりと過し、家族親族で供養の誠を尽くし、またお見送りをする時と考えています。

2 あら ぼん 新盆のご供養

「新盆」は、当地福島では「あらぼん」と呼びます。そのほか全国的には「にいぼん」「しんぼん」とも言い、また「初盆」とも言います。

亡き精霊がご先祖になり、初めて迎えるお盆であり、特別にねんごろにご供養いたします。ほとけ様の世界から、初めての里帰りと考えての供養です。



3 お盆のご供養の流れと呼び方

*「七月盆」…7月13日から7月16日までは、正式なお盆期間です。東京をはじめ関東を中心に、全国に七月盆の地域があります。別名「新盆（しんぼん）」、全国の2～3割が七月盆です。

*「八月盆」…別名では「旧盆、月遅れのお盆」とも言われます。

農業関係の収穫に由来するとも、また旧暦にあわせてとも、さらに夏休み休暇による帰省に好都合だったから等、諸説ありますが、広く全国で行われています。

大切なときですので、亡き方々に夏の季節のもの、好物をお供えし、心からなる供養をおつとめいたしましょう。

八月盆の流れ

- ・ 8月7日 … 七日盆（なのかぼん）お盆の飾りつけをする
- ・ 8月13日 … 迎盆（むかえぼん）夕方迎え火を軒先で焚き、
ご先祖をお迎えする
- ・ 盆中 …… 盆踊り等の行事 盆踊りは先祖を囲んでの行事
- ・ 8月16日 … 送盆（おくりぼん）ご先祖がほとけの世界にお帰りのになるので、お見送りをする
- ・ 8月20日 … 二十日盆（はつかぼん）実家に帰ってのお盆行事
- ・ 8月24日 … 地蔵盆（じぞうぼん）お地蔵様を中心にお盆供養
- ・ 8月30日 … 晦日盆（みそかぼん）収穫等の関係で、遅いお盆

